

## あ と が き

昭和39年1月東南アジア研究第3号を編集した。当初38学年度には2号まで出す予定であったが、研究活動の活発化もあって、更に第3号を追加出版することとなったのである。まことに喜ばしいことと言わねばならない。前号出版の38年11月以降、研究センターにもいろいろの出入があった。事務を一時おてつだいでいた橋田君子さんが11月一杯でお引きになった。御出産のおめでたの為である。代って12月23日から若村芳子さんに復帰して頂いた。おめでたが済んだのである。飯島茂君が助手として大多忙の毎日を送っている。昨秋好配を得られたが僅か一週間休暇を取られたばかりである。

その後東南アジアの現地で研究をなされたのは、木村康一教授、堤利夫助教授（1月27日帰国）、荻野和彦、菅誠（1月27日帰国）、渡辺弘之（1月30日帰国）、斉藤万之助、古川久雄の諸君、本岡武助教授、佐藤孝教授、渡部忠世助教授であり、1月17日には、医学部の西尾雅七、浅山亮二の両教授が出発された。また川口桂三郎教授は2月にタイ、フィリピンに出張された。

12月22日から1月9日までバンコックに Liaison Office を開設された本岡武助教授が連絡のために帰校され、大活躍をして再び赴任された。バンコック・リエイゾン・オフィスの開所式は2月7日に行なわれ、奥田総長、岩村所長、文部大臣代理として文部省の天城調査局長などが出席された。この種の機関が研究の為に海外に設けられたことは刮目すべきことで、開所式前からすでに十二分に利用されてきている。なおバンコック駐在中の本岡助教授はクアラルンプールのFAOのWorking Partyに、開所式出席の岩村所長はUNESCOの会議に出席され、又タイで熱帯農業研究中の佐藤教授は農業指導の為にカンボジャに出張された。

待望のHRAF (Human Relations Area Files) は1月下旬神戸港に到着し、現在使用開始に備えて準備中である。

誰でも知っていることなので後になってしまったが、前号出版直後奥田東初代所長が京大総長に就任されたため、堀江教授の所長事務取扱をへて岩村調査研究部人文・社会科学研究部門主任が2月1日第2代所長に就任された。これに伴い文学部人文地理学の織田武雄教授が調査研究部人文・社会科学研究部門主任とされた。

本号収録の執筆者に厚く御礼を申し上げねばならない。海恵、工藤両君は昨秋までビルマのInstitute for Advanced Buddhist Studiesに2年間留学されていた新進学徒で、現在文学部の長尾教授の下で研究中である。Vu Toan君は北ベトナムの出身であるが現在南ベトナムの国籍を持つ。アメリカのヴェンダービルド大学でMAを得られ、京大経済学部研修員として3年滞在され、この1月帰国された。研究会の講演原稿を前田成文君に訳して頂いた。平易であるが、ベトナムを内部から話されてよく事情を理解させた。自然科学の充実した論文を頂いたが、タイ国の河水の分析の原稿を頂いた瀬野錦蔵教授が入院された。切に御回復をいのる。新刊紹介を今後とも心掛けておいて頂きたい。なお印刷の図版、文字その他中西印刷に迷惑をかけたお礼を申し上げねばならぬ。

(編集委員)